

2010年

今日の逸品2

出雲弁だんだんかるた

(制作・販売：山陰中央新報社)

出雲弁は、「ばんじまして」「だんだん」「おんぼろ」など語彙が豊富で、その一つ一つが何とも言えない温かみを持っています。

このカルタは現在も生活言葉として使われている出雲弁を大切に保存し普及させることを目的に制作されました。

付録には百語を収録する出雲弁小辞典と、読み上げCDが付いています。



博多弁かるた

(製作：株式会社テレビ西日本)

博多弁は「すぐ来るけん」というように「行く」を「来る」と表現し、また博多弁には「太い」と「大きい」との区別がありません。

これは概念未分化といわれる古代の日本語の名残りであり、地域文化のタイムカプセルともいえます。

このカルタにはアナウンサーが読みあげるCDも付いていて、博多弁を知らない方々の入門編としても利用できます。

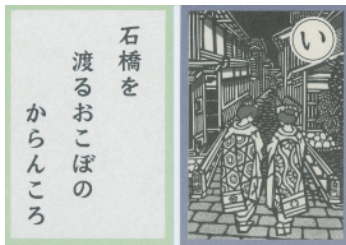


洛中・洛外いろはかるた

(切り絵：早川勝二 文・監修：平石金吾)

このカルタは大牟田で生まれ育った平石金吾氏が文を、京都生まれの切り絵師早川勝二氏が絵をそれぞれ担当して完成したカルタです。

平石氏は三池高校卒業後、京都の呉服商に就職、修行の傍ら40数年にわたり京都の洛中・洛外を隈なく散策し、名所旧跡を五・七・五の短文にまとめ、その情景を早川氏が独特の切り絵で表現しています。



にんぷろかるた

(監修：小島毅（東京大学）解説：静永健（九州大学）

製作：鶴田陽子・福林春乃)

このカルタは九州大学大学院の静永健准教授（中国文学）たちの研究グループが、日本と古くからつながりの深い中国を中心に、アジアの歴史や文化を学習する目的で作られました。

「遣唐使」や「朝鮮通信使」などをテーマに、「あさきゆめみし留学生」「黄金の国を目指してマルコ・ポーロ」などの簡潔で分かりやすい言葉で、海を駆け抜けた人々の姿を描いています。



大牟田警察署新築落成記念果物ナイフ

このナイフは、1929（昭和4）年12月21日に大牟田警察署庁舎を市内不知火町3丁目（現庁舎西側の隣接地）に移転・新築したことを記念して関係者に配られたものです。

3種のナイフは三池刑務所（旧三池集治監）の入所者による刑務作業品で、箱の内側には「さびない果実ナイフ 三池刑務所製品」と謳っています。



川上澄生とらむふ繪

大正から昭和にかけて活躍し「木版画の詩人」と称された版画家・川上澄生のトランプの復刻版です。

彼の独特の感性によって美しく彩色された木版墨刷の豪華なトランプは、クラブは日本的なもの、スペードは中国的、ダイヤは近東的、ハートは南蛮的なもので構成されています。彼はこのトランプの制作に1938（昭和13）年の春から取り掛かり、完成までに2年を費やしています。

